



文学部 歴史学科

文化財・考古学コース

FACULTY OF LITERATURE
DEPARTMENT OF HISTORY

CULTURAL HERITAGE AND ARCHAEOLOGICAL STUDIES COURSE

学びの分野

文化財(美術史・工芸史) 考古学 博物館学 文化財保存学

このコースがめざすこと

過去を未来に伝える語り部に

文化財・考古学コースでは、発掘されたモノの製作年代を特定することをはじめ、当時の社会や生活、思想を分析し、エビデンスとともに未来へと継承する方法を考えていきます。例えは、各地の文化遺産は地域活性化に大きな役割を果たしますが、そのためには適切な保存・管理

3つのポイント

4分野の学びを軸に
史実を解明する力を養う

本コースでは「文化財（美術史・工芸史）」「考古学」「博物館学」「文化財保存学」の4分野を軸に、経験豊かな教員陣が指導。文化財の価値を正しく評価する眼力を養います。

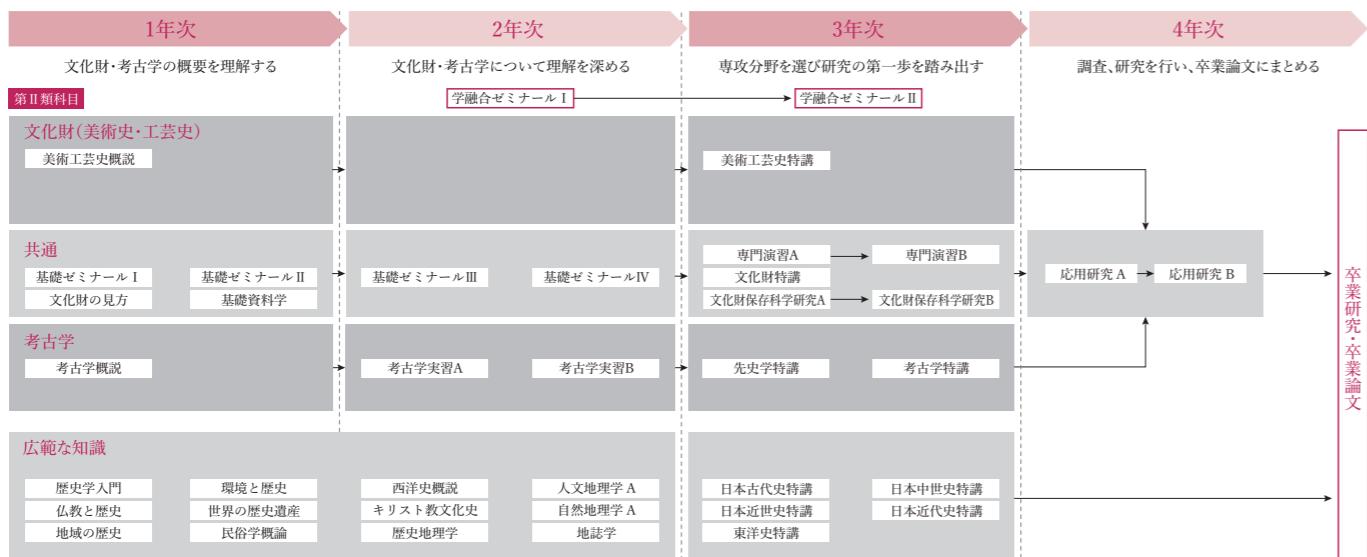
実物を見て触って学ぶ
実践型・体験型授業が充実

文化財・考古学の分野は、実物あってこそ。博物館で実物を見て学び、実際に触れて保存・修復方法を学ぶなど、博物館や美術館の実務を体験できる機会もあります。

カリキュラム

歴史を見る目を養い
多様な業界で活躍

卒業生は、研究者や博物館・美術館の学芸員など、文化財・考古学の専門職に就くほか、遺跡をめぐる旅行プランの企画や考古学関連の編集職などで活躍することもできます。



こんなキミに学んでほしい

日本・東洋の美術品・工芸品や考古遺物(遺跡や出土品)、博物館・美術館・古社寺などに興味がある人
日本・東洋の歴史や文化を学ぶ意欲があり、疑問に対して自ら行動・解決しようとする人
博物館資料を適切に扱うための知識と技術を学びたい人
または学芸員資格を取得したいと考えている人
美術品・工芸品や考古遺物の観察と分析をとおして事実を明らかにする思考力を身につけたい人

ワンポイントアドバイス

こうすればもっとわかりやすいのに、「ここをもっと知りたいのに」
そう博物館や美術館で感じられるなら
文化財を扱う専門職の資質アリです。
このコースで本格的に勉強してみませんか?



文化財・考古学コースの“学びのフィールド”



考古学実習

発掘調査で出土した遺物を整理し、報告書を作成するまでに必要な各種の技術を習得することをめざします。破損した遺物の修復方法や考古資料の撮影技術、土器・石器の実測図作成、文様を写し取る拓本の技法などを学習。学術報告ができるスキルを身につけます。



大山黎
歴史学科
文化財・考古学コース 3年
栃木県出身

私の理論×実践 展示の基本を学び、自分なりの見せ方を考える。

私は学芸員や考古調査士の資格を取得し、将来は博物館展示に携わることが目標です。授業では、繊細な浮世絵を展示する際には角度や明るさが重要であり、明るさは作品を傷つける異物の発見にも重要だと学習。展示物によって劣化条件が異なるため、厳格に室温や湿度を管理する大切さも学んでいます。ただ、実際に博物館を訪れると、湿度管理のための除湿剤が目立つケースなど、見せ方に改善の余地がある場合もあり、自分ならどう展示するのかを想像力を働かせながら観賞するようになった点に、我ながら成長を感じています。

TOPIC

考古調査士や学芸員をめざす

文化財・考古学コースでは、博物館での絵画や工芸などの文化財展示を想定した「展示論」、野外での遺跡の測量技術を学ぶ「考古学実習」など、学芸員や考古調査士の資格取得に必要な知識や技術を修得する科目が充実しています。専門職人材として多くの卒業生を輩出してきた指導ノウハウを存分に生かしたカリキュラムになっています。



担当教員

名前	職階	専門	研究内容
塙田 良道	教授	考古学、博物館学	埴輪や壁画など古墳時代の造形と絵画の研究、古代における日本列島と東アジアとの関係
富井 滉	教授	考古学、先史学	先史学・考古学の方法。過去の人間の、行為や行動、自然との関わり
大島 幸代	専任講師	佛教美術史	日本や東アジアの仏像や仏画の研究

シラバス

Taisho portal
<https://www.tais.ac.jp/faculty/syllabus/>

教員情報

知のナビゲーター
教員紹介
<https://www.tais.ac.jp/chinavi/>